

校内授業研究会

(生活科・国語科書写)

7月6日(月)に生活科・国語科書写の校内授業研究会が行われました。今回は国語科書写の共同研究者である鳥取大学の住川英明教授に参加していただき、書写の授業づくりについてお話をしていただきました。子供たちに字形を意識させるためには、文字の部分と部分の関係や構造を細かく考えさせることも大切であることを解説されました。また、授業の中で書写用語を教師がきちんと使用し、子供たちの口から自然に用語が出てくるように促していく必要があることも教えていただきました。

協議では、生活科・国語科書写の2つの授業ともに、活発な意見交換が行われ、今回は校外からの参加者もあり、それぞれの研究についてさらに深く考える機会になりました。



《生活科》

本授業では、この日までに「雨の日を楽しもう」と、雨の日の散歩を体験し、子供たちが個々に感じたことや気付いたことを友達と出し合う活動を行いました。その際には、クイズや実演、絵など、子供と考えた表現方法を取り入れました。その中で、1年生の子供たちが、より楽しく前向きな感情をもちながら自らの(友達)の学びを振り返ることで、一人一人の気付きがより自覚されたり、次の活動への意欲をもったりする姿を目指しました。



雨の音を道具や言葉を使って再現しようとする子供、絵で生き物の様子を伝えようとする子供など、自分の気付きを友達に伝

える姿が見られました。友達の発見を受けて、「今度は雨粒をよく見てみたい」といった振り返りもありました。一方で、活動における教師の意味付けや価値付けのあり方、授業展開の工夫など課題も見えました。

1年生の発達を鑑み、体験における言葉には表れにくい個々の姿や気付きを引き出しながら、友達とどのように楽しく伝え合っていくのか、検討・実践していきます。

《国語科書写》

今回の学習は、片仮名と平仮名、片仮名と漢字などの類似点や相違点に着目し、文字どうしを具体的に比較することで、違いを意識して書く技能を身に付けることをねらいとして行いました。文字の特徴や細かな違いを理解し、意識して書こうとする力が、既習事項を想起し正しい文字を確かめたり、今後の学習で文字を正しく整えたり、点画のつながりを考えたりしながら書くことにつながると考えました。

授業では、子供たちは、文字を比較して、相違点を考える際に、これまでの学びを生かし、「折れ」「曲がり」、○画目など、書写の用語を使って、具体的に説明することができました。しかし、筆順を間違えている子供も何人かいました。点画のつながりを考えたり、文字を整えて書いたりするために、筆順の定着や確認も大切だと改めて感じました。

また、今回、水書用筆を用いることで、力の入れ方の加減や滑らかな運筆を意識して、「止め」や



「払い」などを書いているかということも、検証したいと考えました。しかし、本時の学習では、水書用筆を十分に取り入れることができず、その効果を検証することができませんでした。水書用筆の取り入れ方についても、ねらいに即した効果のあるものか、どのようなときに用いることがよいのかなど、検討する必要があると感じました。

校内授業研究会

(外国語科・社会科)

7月13日(月)に外国語科・社会科の校内授業研究会が行われました。今回は外国語科の共同研究者である鳥取大学の足立和美先生に参加していただき、外国語科の授業づくりについてお話をしていただきました。小学校の段階では、思い切って積極的に声を出していくことは大切ですが、英語の発音や文法についてもこだわって指導してほしいということ。中学校につながるようなレベルの英語の知識についても授業の中に取り入れることで、学びが深まっていくことなどを教えていただきました。

協議では、外国語科・社会科の2つの授業ともに、研究の観点について意見交換が行われ、それぞれの研究についてさらに深く考える機会になりました。



《外国語科》

外国語科では、コミュニケーション能力の育成をテーマに研究を進めています。今年度は、今まで学習してきた表現や対話の中でよく使われる表現、繰り返しやジェスチャーなどを使って、何とかコミュニケーションを続けていく能力を養うための手立てを検討するために、6年生「What do you want to watch?」の学習を行いました。

子供たちは、ALTの発音をしっかりと聞き、学習表現を練習した後、対話の続きを考える活動をしました。話し合った表現を参考にして、ペアで対話を行



ました。見たいオリンピック競技を尋ね、その後質問をしたり、感想を言ったり自分なりに考えながら対話を続けようとする姿が見られました。ペアを変え、繰り返し行うことで、対話を続けるための表現を徐々に増やしていました。最後には、ALTとの対話を発表できる子供たちもあり、感心しました。今後も相手を大切にコミュニケーションを行うことを考えながら研究を進めていきたいと思ひます。

《社会科》

社会科では、原因や背景を探りながら、社会的事象に対して様々な角度から見たり考えたりする力を伸ばすことを目指しています。そして、子供の予想や先入観を覆す社会的事象である「プラス1」の情報を提示することによって、子供たちがさらに疑問をもち、追究し続ける学習を目指しています。

6年で行った「聖武天皇の大仏づくり(奈良時代)」では、予想・調査・話し合い・検証を学習手段の軸に据え、「何のために大仏をつ

くったのか」「どのように大仏をつくったのか」を追究しました。子供たちは、年表や教科書などをもとに学習課題につながる情報を次々に見付け出し、自分の予想やその根拠を出し合っていました。

また、「プラス1」の情報として、大仏づくりに協力した僧侶「行基」にスポットを当てました。行基に対する朝廷の動きと政策の変化について提示をすると、子供たちは、「なんで、行基に対する関わり方が変わったの?」「多分、こういう目的があったんだよ。」「資料のここを見ると、こう書いてあるで。ということは、聖武天皇はこう考えていたんだよ。」など、資料や今までに学習したことなどを自分の考えの根拠として、話し合いを深めていました。

子供たちの考える力、想像する力に、限られた時間の中でも情報を見付けようと集中する姿に担任も驚かされました。

今後も子供たちの意欲や疑問が湧き出てくる学習を展開していくために、研究を深めたいと考えています。

